学校だより　＜りょくふう＞

緑風

校訓　継続は力なり

鴻巣市立吹上中学校

教育目標
①進んで学ぶ生徒
②心豊かな思いやりのある生徒
③たくましい生徒

令和３年８月３０日　第５号

宇宙へ夢を乗せて

校長　岡田　英行

４０日間の夏休みを終えて、今日から２学期のスタートです。コロナ禍の出口が見えない中、原点に戻って検温・マスク・手洗い等、基本的な感染防止に努めることが学校生活を守ります。授業や行事、部活動は引き続き制約されますが、嘆きやぼやきはやめましょう。現在開催中のパラリンピックは、**「できないことを数えるより、できることを数えよう」**と、あきらめない生き方を教えてくれています。

２学期最初の大きな学校行事は、９月１０日（金）の吹香祭です。当初は１１日（土）の予定でしたが、コロナ対策として昨年度に続いて保護者・地域への公開を見合わせ、平日開催とさせていただきます。生徒の活動状況は学校ホームページ等でお知らせしますので、何卒ご理解をお願いします。既に１学期のうちから生徒による実行委員会が組織され、３密を避けた企画を工夫するとともに、開校７５周年を意識した内容を計画してくれています。

７５周年というと一見中途半端な年数ですが、１００年（１世紀）を単位とするからこそ節目となります（ちょうど３／４にあたる通過点です）。ぜひ生徒の皆さんは、本校１００周年の頃の自分の姿を思い描き、未来志向で今年を過ごしてください。今から２５年後ですから、現在の吹中生は４０歳に手がかかろうとしています。働き盛りの年代となり、社会を支える大黒柱となっているに違いありません。きっと、世の中も大きく変わっていると思います。ＡＩ（人工知能）を搭載したロボットが、家庭や職場で当たり前のように働いているかもしれませんし、環境に配慮したクリーンエネルギーや自動交通システムが実用化されているかもしれません。そんな、近未来を先取りしたような最新テクノロジーが注目を集めたのが、夏休み中に行われた東京オリンピックでした。開会式ではドローンの編隊飛行が地球の形や五輪マークを夜空に描き出し、選手村では自動運転バスが選手たちの足となりました。空想でしかなかった夢が目の前の現実となり、「まるでドラえもんの世界」との感想もあったそうです。

今年度の吹香祭は、もはや夢物語ではなくなった“宇宙新時代”に大接近します。これまで研究や探査の対象であった宇宙は、旅行先や居住地として急速にビジネス化が進んでおり、誰もがロケットで飛び立てる日は確実に近づいています。そこで当日は、ＪＡＸＡ（宇宙航空研究開発機構）の宇宙教育センターとオンラインで結び、２５年後の宇宙開発についてお話を伺います。さらに、宇宙飛行士の訓練の一部をみんなで模擬体験します。

おかげさまで開校７５周年　④

本校の文化祭は「吹香祭（すいこうさい）」と呼ばれ、今年で３４回目を迎えます。さかのぼって数えると昭和６３年が第１回となりますが、実はこの年が本校の文化祭の始まりではありません。第１回文化祭は昭和５１年に行われており、１３回目にあたる文化祭を第１回吹香祭として開催したのが昭和６３年でした。前の年に、開校４０周年を祝してこれまでの歩みを振り返ったのを機に、オリジナルの名前とともに新たな第一歩を踏み出そうとしたのです。「風泉祭」「鼓吹祭」「風香祭」「丹桂祭」（丹桂は校木きんもくせいのこと）等の候補もあったそうです。『吹香の名は、吹上中学校の香りを意味しますが、これは校木きんもくせいの香り、吹上中学校文化の香りを表し、そしてこの伝統を伝えていこうという願いをこめての命名でした。』と、その年のＰＴＡ広報紙「かけはし」に紹介されています。内容も盛りだくさんで、クラス展示、体育館での出し物、バザー、ＰＴＡの作品展等、賑やかだったようです。さらに後日、当日に飛ばした風船が遠く能登半島（石川県）まで届いたという知らせを受け、校内は驚きと喜びに包まれました。